山口２区総支部長 平岡秀夫氏が挑む

世襲政治からの脱却

政治家の世襲をめぐる問題が改めて注目を集めています。先進国の国政で世襲議員が占める割合は1割以下に対し、日本では自民党で約3割、閣僚の半数以上が世襲議員が占めているという調査結果もあります。政治家の世襲はどのような問題点があるのか。山口2区総支部長の平岡秀夫氏に話を聞きました。

山口２区総支部長 平岡秀夫氏

なぜ世襲が悪いのか。

弊害 1 利権集団との結びつき

１点目は特定の集団と特定の政治家が結びつくことにより利権集団が誕生し、その利権集団が政治家の世襲によって永続化することです。

利権集団と結びついた政治家が引退したり亡くなった場合、利権集団が集団を維持するために結びつく政治家として手っ取り早いのは、その政治家の子ども（親族）である政治家を選ぶことになります。

世襲政治家が特定団体の利益を優先することで、国民にとって本当に必要な施策を講じることができず、日本は世界からも取り残された状態になってしまいます。

有権者より利権集団のための政治が続いてしまうかもしれません。

弊害 2 公正な競争ができない

2点目は、政治における公平な競争が失われることです。選挙の勝利に必要なものとして「地盤」（後援会などの支持組織）、「看板」（名前）、「カバン」（資金力）があり、その３つを生まれながらにして持っているのが世襲政治家なのです。世襲政治の下では、どんなに優秀な政治家が、どんなに立派な政策を持っていても、世襲政治家には選挙で勝つことができず、政治家同士の公平な競争が成り立ちません。

勝ち目がないと、能力のある有望な候補者も現れなくなります。例えば、今年4月の衆議院補欠選挙のある党の公募には、後継の世襲がいない選挙区で72人が応募したそうですが、後継の世襲がいる選挙区には若干名（実際には1名と思われます）しか応募がなかったそうです。

世襲議員の選挙勝率8割というデータもあります。

平岡氏から皆様へメッセージ

政治家の安易な世襲を止めるために、議員立法で「世襲禁止法案」を提案したこともあります。多様な人材が政治家になることを阻害し、政治を停滞させる原因となっている「世襲政治」からの脱却を皆様とともに実現したいと思います。